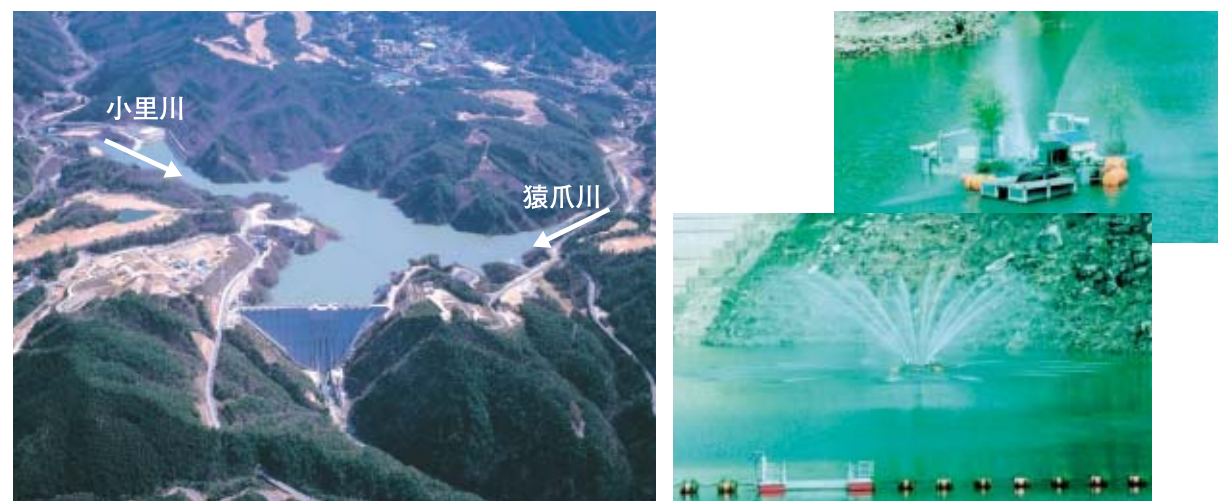


③ おりがわ湖の水質を保全すること

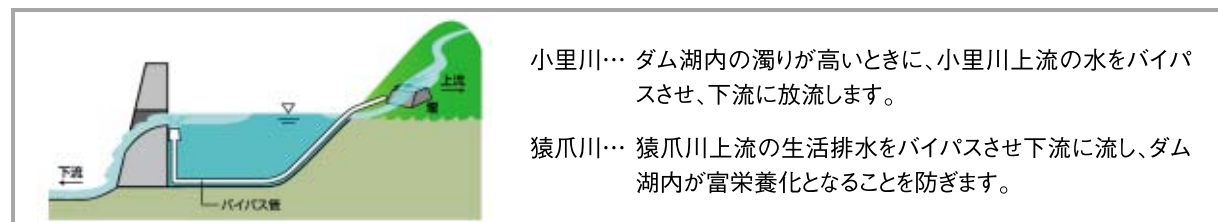
小里川ダムには上流の市街地から生活排水や産業排水が流入してくるため、おりがわ湖(小里川ダムのダム湖)の水が濁ったり、富栄養化によってアオコが発生するなどの水質の問題が出てくる可能性があります。

そのため、継続的に水質の監視を行うと共に、状況に応じた対策を行っていく必要があります。



●小里川ダムの様子(H15年撮影) ●小里川ダムにおける水質対策(表層循環設備)

小里川ダムにおける水質対策(バイパス管)



④ 河川の持つ自浄機能を向上させること

土岐川庄内川河口部に広がる干潟やヨシ原は底生生物などを育み、渡り鳥などの餌を供給するなど、生物の営みを支えると共に水質浄化などにも役立っています。

水質を少しでも向上させていくためには、源流から伊勢湾に至るまで、流域全体の多様な生態系を維持し、川が本来持つ自浄機能を高めることが大切です。



●庄内川河口干潟 ●庄内川河口部に広がるヨシ原

(3) 地域住民や地域企業が一体となって水環境を改善する

① 環境に対する意識を向上させること

土岐川庄内川の水質は、台所の水や洗濯に使った水などの日常的な家庭生活から出る雑排水、工場から出る産業排水、肥料や農薬などが混ざった農業排水など、我々の生活や経済活動と深く関わっています。

生物が息したり、人が親しめるような水環境に改善するためには、行政だけではなく、地域住民、地域企業やNPOが流域の一員であるということを認識し、一緒に考え、取り組んで行くことが重要です。

地域住民、地域企業やNPOが河川と親しむ活動や支援を行っていますが、これらの活動をさらに活性化し、環境に対する意識を高めていく必要があります。



●水生生物調査(新東谷橋上流)

② 環境にやさしい生活様式に転換すること

環境への意識は年々高まっていますが、「自然の叡智」をテーマとした愛知万博の開催や、藤前干潟のラムサール登録などもあり、ますますその傾向が強まっています。

豊かな自然環境を守っていくためには、流域内で生活をしている一人一人が、日常生活の中で環境にやさしい生活を意識し、自分ができることに取り組んでいくことが大切です。



●エコグッズ(一例)

環境にやさしい生活様式の例

